

大阪教区「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)

総合基本計画・重点プロジェクト

1. 総合基本計画

宗門では、2012(平成24)年4月から、宗門活動の柱とする運動を「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)として、これまで推進してきた「基幹運動」の成果を踏まえた、宗門全体の活動として推進しています。

この「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)は、『宗制』に掲げられる宗門の基本理念、「あらゆる人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝え、もって自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する」ことを体した運動であり、変化する時代状況を踏まえ、宗門を構成する僧侶門信徒全員が、「いのちの尊さにめざめる同朋一人ひとりが自覚を深め、浄土真宗のみ教を社会に広め実践していく」ことをめざしています。

それは、すべての教化活動をはじめ、重点プロジェクトとして教区や組、そして寺院や教化団体が、従来の枠組みを超えて取り組むものです。

近年、日本の社会情勢は、著しい過疎・過密化現象、少子高齢化や核家族の増大の中にあります。この背景に伴い、人々の宗教に対する意識も大きく変化しており、法要儀式の簡素化や、墓じまいや寺離れが進み、寺院での教化活動も困難になっています。

この状況に鑑みますと、これまでのような代々続いた寺檀関係を基礎とした伝統的な伝道活動だけでは教線の維持はもちろんのこと、浄土真宗のみ教を後世に伝えることは難しいと認識せざるを得ず、時代に即した新たな伝道の在り方への転換も必要といえるでしょう。

加えて、いま世界は未知の新型コロナウイルスの脅威にさらされ、多くの人々のいのちが失われ傷ついており、世界の人々の共通の問題となっています。この感染症によって、これまで漫然と享受してきた日常の営みが、如何に貴重であったかを改めて思い知ることとなりましたが、同時に今世界において、新たな生活様式が求められるようになっています。

現在、ワクチン開発や新たな生活様式の確立が待望されていますが、この感染症による不安や動揺によって、社会の中にある寺院においては、法事や法要などで、僧侶門信徒共に寺院に集うことがままならない事態となっています。

私たちは、このような状況にあって、改めて掲示伝道や文書伝道、また、インターネットを活用した伝道など、工夫を凝らした伝道施策を駆使して、寺院としての機能を発揮し、人々の心の不安をやわらげ、力強く生き抜くための拠り所を伝えるため努力しなければなりません。寺院が地域の力となるべく、何ができるかを考える必要があります。

大阪教区では、宗門が策定した総合基本計画・重点プロジェクトに基づき、これまでの成果や教区の実情を踏まえ、前述の状況に鑑み、実践運動を推進してまいります。

運動推進の方向性としては、「運動推進の主体は組である」という従来からの位置づけに基づき、教区は組を支援し、教区単位で実施すべき事業は教区で実施するという、相互の連携のもとで運動の展開を計ります。

具体的には、以下の10項目を中心に取り組みを進めてまいります。

- (1) 組代表者(組長・組委員長等)を対象とした実践運動推進協議会の開催
- (2) 「実践運動推進講師」派遣の促進
- (3) 時代、時世に応じた伝道の手法と寺院活動のあり方の研究と方途の検討
- (4) 組織教化団体の活性化、拡充に向けた取り組み
- (5) 組連研の開催奨励と門徒推進員の増員
- (6) 教学の振興と伝道の推進
- (7) 広報紙「大阪サンガ」の紙面充実とSNSやホームページ上での広報活動の充実
- (8) 部落差別をはじめとする様々な差別の現実に学ぶ取り組み
- (9) 「いのちの尊厳と平等」に関する社会の諸問題への取り組み
- (10) 運動推進にかかる情報交換・発信、ICT環境の整備、資料等の作成と配布

専如門主は『念仏者の生き方』で、「国の内外、あらゆる人びとに阿弥陀如来の智慧と慈悲を正しく、わかりやすく伝え、そのお心にかなうよう私たち一人ひとりが行動することにより、自他ともに心豊かに生きていくことのできる社会の実現に努めたいと思います。世界の幸せのため、実践運動の推進を通し、ともに確かな歩みを進めてまいりましょう」とお示しになっています。

近年、地震や台風、豪雨といった自然災害はその規模が大きく、一瞬のうちに多くのいのち、かけがえのない生活が奪われています。加えて、終息の見えない新型コロナウイルス感染症によって、世界規模で経済や社会活動全般に混乱が生じ、人々の不安は拡大しています。こうした中、寺院活動のあり方も変革が求められましょう。

共に難局を乗り越えるべく、知恵を出しあって、できることを精査し、一人ひとりが互いに敬愛しあう「御同朋の社会」の実現をめざして、「お寺が元気になる」活動として、実践運動に取り組みしましょう。

2. スローガン 「結ぶ絆から、広がるご縁へ」

3. 重点プロジェクト

2012(平成24)年度に重点プロジェクトが提唱されて以来、教区・組・寺院・教化団体などの活動主体が、それぞれの特性に応じて独自に実践目標を定め、特色あ

る活動を推進してきました。重点プロジェクトとは、社会への具体的な貢献をめざし、実践目標を定め、年限を区切って取り組むものであります。

大阪教区では、第1期、第2期と合わせて6年間、現代社会が抱える諸問題を「葬送儀礼」に集約して、実践目標を掲げて推進してまいりました。その「葬送儀礼」に取り組む中で、故人を弔う墓制(お墓)や人生における儀礼・儀式の大切さについて学びを得ました。そして第3期重点プロジェクトでは、宗門全体の課題である「貧困問題」とあわせて、教区のこれまでの取り組みであった「葬送儀礼」での学びを継承し、教区独自の実践目標として「人生儀礼」に取り組んでまいりました。

今期も、宗門全体の実践目標と、あわせて教区独自の実践目標を掲げて取り組みます。

(1) 宗門重点プロジェクトの実践目標

＜^{ひんこん}貧困の^{こくふく}克服に向けて ～^{ダーナ}Dana for ^{ワールド}World ^{ピース}Peace～＞ - ^こ子どもたちを^{はぐく}育むために -

今期は前期を踏襲し、ご親教『念仏者の生き方』のお心を体した宗門全体の実践目標を定め、一体感を持って取り組むこととなりました。

大阪教区では、まず「貧困」とは何かについて「知る」ことからはじめ、具体的な「学び」を深めてまいりました。

今期より、持続可能な支援活動を展開するため、組・組織教化団体などと協働して、まず教区内における施設や既存団体、また行政の要請に応じて、支援活動を実施してまいります。また、あわせて具体的な活動を展開するための研修会や協議会を開催します。

(2) 大阪教区重点プロジェクトの実践目標

＜魅力ある寺院をめざして＞

「魅力ある寺院」とは、お念仏の場であるとともに、人の一生と深くかかわる儀礼の場、情報や文化の発信の場、記憶と歴史の場、社会の活動の場、人と人がつながりあう場であり、一人ひとりが大切にされ、また、いたずらに世間におもねることなく、広く公益をもたらす活動の場であります。

大阪教区では、前期までの重点プロジェクトで「葬送儀礼」及び「人生儀礼」をテーマに活動してきました。そこで学ばれたことは、それらの儀礼は、人のいのちの営みにとって必要不可欠なものであり、人を宗教や宗派に結びつけることだけを目的とするのではなく、全人類に生きる力や幸福感、決意などを与えるべきものであるということでした。今期では、その人生儀礼を＜魅力ある寺院＞という視点からも位置づけ直します。

「魅力ある寺院」として寺院を活性化し、その活動を持続するものとするためには、何よりもまず活動の基盤がなければなりません。そのために、まず、『人生儀礼 ハンドブック～人生を豊かに彩るために～』を用いて「人生儀礼」のもつ宗教性とその大切さを学び、行事を通じた寺院の活性化の実践をめざします。そして、同時に、「魅力ある寺院」としての活動の確立と、その活動のための寺院運営の基盤づくりをめざします。

以 上

【2020(令和2)年9月20日策定】